

■菅原清公 学者公卿。道真の祖父。入唐で得た新知識で朝儀の整備や地方行政に功績。天皇5代に仕え、菅家の基礎。

すがわらのきよきみ

光仁天皇・・・770＝菅原古人の第4子に生まれる。

菅原家は儒学者の家系として著名であったが、父が侍読として桓武天皇に仕えるも生活に無頓着で家は貧窮、天皇が自らの血統につながる家系と意識して(菅原氏祖先は土師氏で桓武天皇の外祖母も土師氏だった)いたこともあって、古人の労に報いるべく、4人の息子に学資の支給することになり、なかでも清公が傑出、

・・・779＝9歳：

桓武天皇即位 781＝11歳：この年、従五位下に叙された父が、一族が居住地大和国添下郡菅原邑にちなんで菅原姓への改姓を願い出て、許される。

長岡京造営始 784＝14歳：詔により、東宮早良親王に侍して諮問にあずかるが、

藤原種継暗殺 785＝15歳：藤原種継事件により、早良親王が皇太子を廃され、配流されて悶死するという事件に直面、

蝦夷征伐始・・・788＝18歳：

・・・789＝19歳：一度は不第となるも文章生試に及第、

・・・791＝21歳：この年、菅原氏は朝臣となる。

平安京遷都・・・794＝24歳：

田村麻呂将軍 797＝27歳：

・・・798＝28歳：官吏登用試験の対策に及第して、大学少允に任ぜられた。

アテルイ投降・・・802＝32歳：藤原葛野麻呂が大使の、遣唐使の判官に任ぜられ、

最澄空海渡唐 804＝34歳：最澄・空海も同船して出航、入唐し、

大事業中止・・・805＝35歳：帰朝、従五位下に叙せられ、大学頭和気広世のもと、大学助となる。

桓武天皇没・・・806＝36歳：平城天皇即位とともに、尾張介に任じられ赴任、治績をあげて良吏の呼び声高くなり、

薬子の変・・・810＝40歳：

・・・812＝42歳：嵯峨天皇の意向で、左京亮として都に戻った後、大学頭任じられ、

凌雲集・・・814＝44歳：従五位上に昇り、右少弁、左少弁から、式部少輔に転じ、この頃成立した「凌雲集」の選者の一人となる。

・・・815＝45歳：この年撰進された「新撰姓氏録」でも、菅原氏は土師一門に記載されている。
この間、嵯峨天皇の詩宴に文人として招かれ、盛んに詩作し、天皇や藤原冬嗣らがこれに和する詩作。
朝儀の整備に尽力し、儀式衣服の唐風採用、五位以上位記の唐風改正、諸宮殿院堂門閣の改称に関与し、

文華秀麗集・・・818＝48歳：この年成立した「文華秀麗集」の選者の一人。天皇に進言して朝儀についての詔書が出される。

・・・819＝49歳：父古人が死去。＊正五位下に叙され、待望の文章博士・侍読となり、「文選」を進講。

冬嗣右大臣・・・821＝51歳：従四位後、式部大輔、左中弁にされるも不満で、右京大夫に還ることを願い出るなどの剛直さが災い、

嵯峨上皇・・・823＝53歳：嵯峨天皇が譲位に当たって、労に報いるべく弾正大弼になるが、

・・・824＝54歳：播磨権守に左遷される。

桓武平氏始・・・825＝55歳：公卿らがこぞって都に戻すように願って、復帰し、

・・・826＝56歳：左京大夫に転じる。

経国集・・・827＝57歳：この年成立した「経国集」編集の労に報いるためか、従四位上に進められ、

仁明天皇・・・833＝63歳：この年完成した「令義解」の編集にも参画、

・・・834＝64歳：摂津権介を兼任、

空海没・・・835＝65歳：「後漢書」を進講するも、なぜかすぐに中止。但馬権介を兼任後、

17遣唐使遭難 836＝66歳：正四位下に昇り、但馬守となる。

遣唐使帰国終 839＝69歳：二階級特進で、従三位に進み、

晩年はとくに牛車を宮中南大庭まで乗り入れることがゆるされたが、

承和の変・・・842＝72歳：没した。

詩文集「菅家集」6巻があったが散佚した。